



## 広 報 資 料

問い合わせ先

第一管区海上保安本部

海洋情報部 監理課長 永田 剛

TEL 0134-27-0118 (内線2510)

# 海氷情報センターの開所について

第一管区海上保安本部では、オホーツク海など海氷が発生する海域を航行する船舶の海難事故を防止するため、「海氷情報センター」(所長：第一管区海上保安本部次長 工藤 健太郎)を12月20日(水)に開所します。

航空機や巡視船及び事務所による海氷観測のほか、協力機関から情報を収集し、航行警報及び海氷速報等で海氷の分布状況等の情報提供を行います。(別紙【資料2】参照)

### 1. 海氷情報の収集

当本部が行う海氷観測情報のほか、協力機関から情報を収集します。

#### (1) 当本部の海氷観測情報(別紙【資料3】参照)

- イ 航空機・巡視船艇による目視観測を随時実施
- ロ 事務所(稚内、紋別、根室、網走、羅臼、花咲)で目視観測を毎日実施

#### (2) 協力機関の海氷観測情報

- イ 気象庁、宇宙航空研究開発機構(JAXA)及び大学が解析した人工衛星画像
- ロ 陸上施設や船舶による目視観測

### 2. 海氷情報の提供

海氷観測情報を一元的に集約、分析・整理し、航行警報及び海氷速報等により海氷の分布状況等を情報提供します。

#### (1) 海氷情報の内容

- イ 航行警報、AIS、海の安全情報  
航行安全上、緊急性の高い海氷の情報については、航行船舶に対し航行警報として無線放送及びインターネット、さらに、AIS(船舶自動識別装置)及び海の安全情報で随時提供

#### ロ 海氷速報

- ① 北緯46度(サハリン南端)付近に南下するまで、海氷の位置を文字情報で提供
- ② 北緯46度付近に初めて達した日以降、海氷の位置を分布図で毎日提供

#### (2) 海氷速報の提供方法

##### イ 海氷情報センターホームページ

URL <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN1/1center.html>

##### ロ ファクシミリサービス(ポーリング受信方式<sup>\*</sup>)

電話番号: 0134-32-9301

<sup>\*</sup>ポーリング機能付きファクシミリで上記電話番号にコールすると海氷速報を受信することが可能(通話料は利用者の負担)

### 3. 近年の海水海難の件数

- (1) 昨季は平成29年3月に海水に起因する海難（羅臼港沖で漁船8隻が海水に阻まれて航行不能となる集団海難）が発生しており、平成24年2月、宗谷岬沖で外国貨物船が海水と衝突した海難以降5年間ぶりとなります。
- (2) 平成12年1月以降、過去17年間海水に起因した死亡または行方不明海難は発生していません。
- (3) 昭和30年から現在まで海水に起因する海難ののべ隻数は367隻、死亡・行方不明者は52名です。

# 海水情報センター設置の経緯

## 択捉島 単冠(ひとかつぶ)湾の漁船集団海難を契機に設置

### 【海難概要】

発生日: 昭和45年3月17日  
 概要: 択捉島南方において操業中の沖合底引漁船19隻は発達した低気圧による大時化を避けるため、択捉島単冠湾に錨泊した。  
 内1隻は強風のため走錨圧流され陸岸に乗り上げ大破。  
 この年の流氷は例年になく優勢で、1月中旬に太平洋側へ流出が始まり、水温が低かったため流氷は溶けずに南下し拮延していた。  
 台湾南方海上で発生した低気圧と九州北岸の別の低気圧が日本列島を挟む形でそれぞれ発達し、3月17日にはオホーツク海で1つになりゆっくり東北東に進んだ。  
 太平洋に南下していた流氷群は低気圧の接近に伴う強い東南東の風により択捉島南岸に吹き寄せられ、大時化の中で圧着集積して3~4ノットの異常な速度で単冠湾に流れ込んだ。  
 錨泊中の漁船11隻は船体損傷を受けながらも自力で流氷群の外へ脱出したが残り漁船7隻は、流氷による損傷及び強風による船上への流氷の打ち込み等により転覆2隻、沈没3隻、2隻は曳航救助された。  
 大破した漁船を含め8隻の漁船乗組員114名の内30名が死亡または行方不明となった。



### 流氷観測通報体制の強化

北方水域における海水の分布及び動向を迅速、かつ、的確に把握のうえこれを周知し、もって当該水域における海難の防止に資する

昭和45年11月 **海水(流氷)情報センター設置**

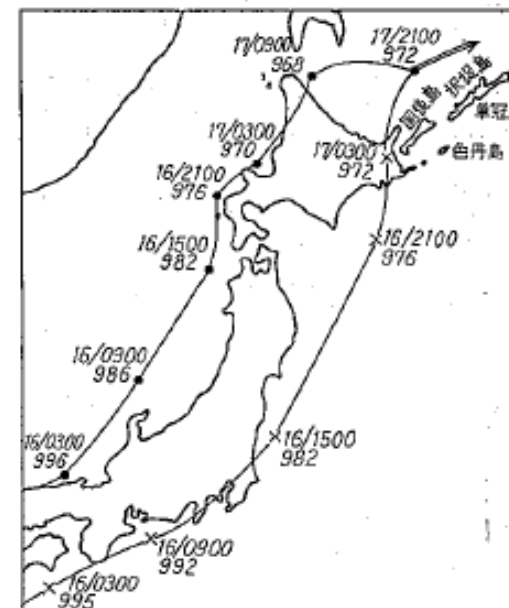
※平成19年12月、「流氷情報センター」を「海水情報センター」に改名

### 【海難発生場所】



### 【低気圧経路図】

S45.3.16~18



# 海水情報センターの業務（情報収集と情報提供）





